

大豆は子実が肥大する時期です。 適期防除と雑草対策で良品質の大豆生産を。

本年の開花期は平年並です。病害虫防除は圃場の観察を行い適期に行いましょう。
また、雑草を除去して登熟環境の改善を図りましょう。

1. 病害虫防除（紫斑病・マメシクイガの防除）

- 紫斑病・マメシクイガは大豆の子実品質に影響を及ぼすため、適期に防除を行いましょう。
- マメシクイガ は日長に反応して成虫の発生時期が決まるため、8月下旬～9月上旬に産卵盛期となります。ふ化幼虫の侵入を防ぐため、**8月25日頃と9月5日頃の2回防除**が基本です。
- 紫斑病 は感染しやすい時期である**開花後25日～35日**に防除を行います。同時防除の場合は適期にずれが生じますが、マメシクイガの発生時期に合わせ、防除を行いましょう。



表1 紫斑病・マメシクイガの防除適期と防除時期の目安

品種	開花期	紫斑病防除適期 (開花後 25～35 日)	マメシクイガ防除適期
リュウホウ	7月25日頃	～8月29日	1回目：8月25日頃 2回目：9月5日頃 (1回目散布の約10日後)
エンレイ	7月27日頃	～8月31日	
里のほほえみ	7月29日頃	～9月2日	

防除例：

1回目防除 (8月25日頃)
紫斑病 + マメシクイガ



2回目防除 (9月5日頃)
マメシクイガ

2. その他の病害虫防除

1) ジャガイモヒゲナガアブラムシ

- 平成 12 年に庄内で大発生し、被害の大きいところでは早期落葉・大幅な減収となりました。
- 葉に黄色い斑点があったら葉裏を確認し、1枚の葉（小葉）に 10 匹以上のアブラムシが確認できるようなら防除を検討しましょう。薬剤は、葉裏にいるアブラムシにしっかりかかるように散布しましょう。



2) ウコンノメイガ

- 年 2 回発生します。葉が巻いていて中を開くと透明がかったアオムシがいます。幼虫は、1～数枚の葉を縦長の円筒状に巻き込み、糸で綴り合わせ、中で蛹化します。
- トレボン乳剤やスミチオン乳剤であれば、マメシンクイガと同時に防除できます。



3) マメハンミョウ

- 成虫は、雄 11～14mm、雌 14～19mm の細長い甲虫です。近年発生が多く、群生して大豆の葉を食害します。体液には毒があり、皮膚につくと、水ぶくれができてやけどのような症状を起こします。
- 防除する場合は、マラソン粉剤 3 を使用します。



3. 雑草対策

- 除草剤の効果が期待できないくらい大きい雑草は、実（種）が付く前に圃場外に搬出するなど、この時期に圃場を見回しましょう。
- うね間散布とされている除草剤は大豆の茎葉にかからないように散布します。株間に残草がある場合は、見つけ次第、手取り除草を行いましょう。
- 今の時期に、雑草対策を行っておくと、秋に思いがけなく大きくなった雑草の抜き取りをする手間が省けます。さらに草との競合がなくなり、大豆の登熟を助けます。



熱中症予防強化月間

暑い日は無理をせず、
こまめに水分と休憩をとりましょう。